「とびらプロジェクトフォーラム」

このページでは、2022年1月22日（土曜日）開催予定の「とびらプロジェクトフォーラム」に関するご案内をしています。テキストは「音声読み上げ用」に作成しているため、ウェブサイトとは、文章や表現などが異なっている部分があります。

# 「とびらプロジェクトフォーラム」のご案内

## 第一部

2022年1月22日(土曜日)13時～15時30分、受付開始12時30分

会場：東京都美術館 講堂、または、オンライン定員：会場参加100名、オンライン参加400名定員になり次第締め切ります。手話通訳あり、UDトークによる文字表示支援あり。

テーマ：コミュニティから芽生える回復力　予測不可能な世界を生きる、アート・コミュニケータの10年とこれから。

2012年にスタートした「とびらプロジェクト」は、2021年4月に10期とびラーとともに10年目を迎えました。10年前の2011年は東日本大震災、そして現在も続くコロナ禍と、この10年は予測不可能な状況が日常になりました。

とびらプロジェクトでは、美術館を拠点に、多様な人々が作品や文化財を介して、フラットに関わり合う「ゼロからの対話」でつむぐコミュニティを目指して来ました。

こうした「創造的な対話の場」は予測不可能な世界を生きる私たちに、日常を健やかに営み継続する「回復力、レジリエンス」を与えるものではないかと考えています。

今回のフォーラムでは、この10年間を振り返りつつ、「コミュニティから芽生える回復力」について、「とびらプロジェクト」に関わってきた人々の言葉から考えていきます。キーワードは、 VUCA（予測不可能な時代）、アート 、対話 、回復力 、コミュニティ、人間らしさ 、ウェルビーイング

みなさまのご参加をお待ちしています。

1 とびらプロジェクトの紹介

発表者、くまがい　かずみ（熊谷　香寿美）　東京都美術館 学芸員 アート・コミュニケーション係

こむた　ゆうすけ（小牟田　悠介）　東京芸術大学 美術学部 特任助教、とびらプロジェクト サブ・マネジャー

2 トークセッション 予測不可能な世界を生きる、アート・コミュニケータの10年とこれから。 登壇者、にしむら　よしあき（西村　佳哲）、いなにわ　さわこ（稲庭　彩和子）、アート・コミュニケータ3 パネルディスカッション　コミュニティから芽生える回復力

登壇者、ひびの　かつひこ（日比野　克彦）　東京芸術大学美術学部長、岐阜県美術館館長、とびらプロジェクト代表教員

にしむら　よしあき（西村　佳哲）　プランニング・ディレクター、リビングワールド代表、とびらプロジェクトアドバイザー

もり　つかさ（森　司）　アーツカウンシル東京 事業推進室 事業調整課長、とびらプロジェクトアドバイザー

いなにわ　さわこ（稲庭　彩和子）　東京都美術館 学芸員 アート・コミュニケーション係長、とびらプロジェクトマネジャー

いとう　たつや（伊藤　達矢）　東京芸術大学社会連携センター 特任准教授、とびらプロジェクトマネジャー

## 第二部

2022年1月22日(土曜日)15時45分～17時

会場：東京都美術館 講堂、アートスタディルーム、スタジオ定員：会場参加のみ100名。第二部に参加するためには、第一部「会場参加」の申込が必要です。オンライン配信はありません。

とびラボオープンセッション

「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開し、とびラボなどのとびラーの普段の活動について紹介します。とびラーがみなさまからのご質問にもお答えします。

## 参加申込方法

参加費無料、事前申込制、先着順

「とびらプロジェクトフォーラム」に参加する場合は、「とびらプロジェクト」ウェブサイト内の申込フォームからお申し込みください。

申込フォームは会場参加とオンライン参加の2種類があります。

どちらかを選んでください。

第二部に参加希望の方は、必ず会場参加を選んでください。

リンク　[会場参加の申込フォーム](https://tobikan.jp/form/287)

リンク　[オンライン参加の申込フォーム](https://tobikan.jp/form/288)